

春高バレー16年連続出場

習志野高校男子バレー部

1月4日から10日まで東京体育館で開催中の、春の高校バレー「第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会」に習志野高校の男子バレーボール部が16年連続で出場。通算出場は39回目。初戦は4日、鳥取中央育英高校と対戦。

千葉県代表決定戦では準々決勝で船橋二和高校、準決勝で市立船橋高校に勝利。決勝戦では東京学館船橋高校を3-1で破り、優勝を飾った。

習志野高校男子バレーボール部の大津陸斗主将は「小学生の頃から夢見てきた舞台なので、これまでのバレー人生の一区切りとして、また、集大成として納得いく形で終われるようにしたいです。チームとしても、この一年、春高での勝利を目標として練習を続けてきたので、これまでやってきたことをすべて出し切りたい。まずは目の前の相手にしっかり勝ち切ることで、そして自分たちで大会の流れをつかみ、日本一を目指します」と語った。



春高バレー出場の習志野高校男子バレーボール部

年末年始特別警戒実施・冬の交通安全運動展開 四中吹奏楽部が出演 『電話de詐欺』撲滅の歌♪でコラボ



ザ☆ギターポリスさんとのコラボで『電話de詐欺』撲滅の歌♪を演奏する第四中学校吹奏楽部

第四中学校と習志野警察署による全日本吹奏楽コンクール&全日本マーチングコンテスト出場記念「年末年始特別警戒スペシャルコラボコンサート」が令和4年12月10日、モリシア津田沼前の津田沼公園で開催された。

千葉県警察の年末年始特別警戒の取組みと冬の交通安全運動の初日、習志野警察署では、全日本吹奏楽コンクール出場を果たした、全日本マーチングコンテストで金賞に輝いた第四



一日警察署長の那須川天心さん(左)と庭野署長

中学校吹奏楽部の出演による、多発する電話de詐欺などの犯罪の被害を防ぎ、飲酒運転根絶に向けての啓発キャンペーンを催した。

オープニングは四中吹奏楽部が「双頭の鷲の旗の下に」を演奏。サプライズゲストとして一日警察署長を務める格闘家の那須川天心さんの登場に大勢から拍手が起った。習志野警察署の庭野英雄署長から委嘱状を交付された那須川さんは「千葉県出身として犯罪

や事故を少しでも減らすため、一日警察署長として皆様と一緒にがんばっていきたい」と挨拶した。

庭野署長は「警察署管内の刑法犯認知件数は前年と比べ減少傾向にあるものの、電話de詐欺や自転車の盗難などの一部の犯罪が増加傾向にあるほか、1月には交通死亡事故が発生しています。これら犯罪や悲惨な交通事故を一件でも減少させることができるよう、各種抑止対策を強力に推進します。関係機関・団体、市民のみならずには防犯と交通安全の輪を広げたい。引き続きの理解と協力をお願いします」と述べた。

今回のスペシャルコラボは四中吹奏楽部の演奏とザ☆ギターポリスさんの歌による電話de詐欺の被害防止のための「習志野警察『電話de詐欺』撲滅の歌♪」の共演。四中のメンバーは自

習志野ベイサイドスポーツクラブ 創立20周年記念式典 『新しいステップに向かって進む』



挨拶するNBSの阿川理事長

総合型地域スポーツクラブ「NPO法人習志野ベイサイドスポーツクラブ(NBS)」の創立20周年記念式典が令和4年11月26日、香澄小学校体育館で開催された。

NBSは、2001(平成13)年5月に市内初の総合型地域スポーツクラブとして設立された。昨年度に20周年を迎えたが、感染症拡大防止の観点から節目の式典は今年度の開催となった。

総型地域スポーツクラブは、幅広い世代の人々が、個人の興味や関心、競技レベルに合わせて様々なスポーツに触れる機会を提案している。

阿川理事長は「NBSは、2001(平成13)年5月に市内初の総合型地域スポーツクラブとして設立された。昨年度に20周年を迎えたが、感染症拡大防止の観点から節目の式典は今年度の開催となった。」

供している。地域住民は会費を出し、規約等を定め、自主運営で地域の学校体育施設や公共スポーツ施設を使用している。

NBSはスポーツ活動の振興を図るとともに、健康づくりやスポーツ文化を育て、心温かい連携を育むコミュニケーションに寄与することを目的としている。第七中学校区の小中学校、秋津運動公園多目的広場などを使い、健康体操、卓球、テニスなどを14種目を展開。ソフトバレーボール大会、三角ベース交流大会も開催し、会員は女子サッカー、陸上競技、小学生バレーボールなどで活躍している。

この協定は、災害発生時に習志野市からの要請により、電力供給のために電源設備車を貸与し、避難や収容のための施設となる同社の「WOW!TOWN幕張」を提供するもの。習志野市では、災害発生時に電力の安定供給が見込めない場合でも、必要な電力を確保し、防災力向上に寄与するとしている。

宮本市長は「災害時に活用できる電源設備車を提供していただくことは、市民

式典でNBSの阿川幸平理事長は「総合型地域スポーツクラブは、質の充実を求められ、様々な課題もあります。20周年を迎え、次の新しいステップに向かって進みたい。ご支援をお願いしたい」と挨拶した。

来賓の宮本市長は「地域でスポーツを盛り上げていくために習志野市は、心から御礼申し上げます。学校施設の利用や将来的には部活動の地域移行という課題もあります。地域の資源を使って、20周年を祝ってほしい。本日はおめでとうございました」と祝辞を述べた。

当日はイベントとして、ポッチャやユニカールの対戦も行われ、世代を超えてスポーツを楽しんだ。

▽習志野ベイサイドスポーツクラブ電話0474-5311334、月・木曜日の午前10時から午後2時まで、土曜日の午前9時から正午まで。ホームページは<http://nbs.d2.r.com.s.jp/>。

FC習志野 来季2部昇格 11月の昇格戦1位通過



2部昇格を決めたFC習志野2年生(18期生)

FC習志野が高田宮杯JFA U-15サッカーリーグ2022千葉で、来季の2部リーグ昇格を決めた。

FC習志野は2部リーグ昇格戦に挑み、令和4年11月6日に行われたローヴァーズドリームフィールドでの1回戦では市川のフットサルクラブと対戦し、1-0で勝利。11月20日に開かれたホームグラウンドの西浜近隣公園サッカー場で2回戦、対プリオベッカ浦安B戦は、両チーム無得点で終え、PK戦の結果、4-3で2勝目を挙げた。

FC習志野の大久保親一代表は「FC習志野の現在2年生の18期生が、17期生の先輩たちの地域3部リーグ・ブロック優勝という熱いメッセージを受け、県2部リーグ昇格を果たしました。引き続き、FC習志野を声援いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます」と述べた。

FC習志野の2部リーグ昇格を決定させ、昇格を果たした。

この結果、FC習志野は参入戦Aグループでの1位を確定させ、昇格を果たした。

FC習志野の大久保親一代表は「FC習志野の現在2年生の18期生が、17期生の先輩たちの地域3部リーグ・ブロック優勝という熱いメッセージを受け、県2部リーグ昇格を果たしました。引き続き、FC習志野を声援いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます」と述べた。

(写真・資料提供) FC習志野

にお返しをしたいと思いますという思いがありました。この機会をいただき、今後も協力させていただきます」と述べた。

協定書の調印は、宮本市長とIDOMの羽鳥由宇介代表取締役との間で交わされた。同社が電源設備車を有する車両の活用に伴う応援協定を締結するのは、習志野市が初。当日は車両が披露された。



IDOMが保有する電源設備を持つ車両

宮本市長は「災害時に活用できる電源設備車を提供していただくことは、市民の安全を確保することが期待でき、身近でこうした協定が結ばれたことは心強く思います」と挨拶した。

調印式に出席したIDOM大型展示事業部大型展示営業本部長の磯野祐介は「3年前の台風による停電の際、市内の店舗に水・食料をはじめとする支援物資を送った事例がありました。地域の皆様